

第3回埼玉県競輪事業検討委員会 概要

- 日 時 令和3年12月24日（金） 13:00～17:00
- 場 所 大宮ソニックシティビル 604号室
- 出席者 岩崎康夫委員（委員長）、小川千恵子委員（副委員長）、小原千代委員
小沼航士委員、竹内春香委員、東角井真臣委員

■議事概要

1 会議の公開について

今回の議題について以下のとおり決定した。

- ・議題（1）埼玉県自転車競技開催業務委託の受託事業者の決定について
→ 非公開（埼玉県情報公開条例第10条第2号及び第4号該当）
- ・その他の議題
→ 非公開とすべき情報は含まれないため、原則どおり公開とする。

2 議事

（1）埼玉県自転車競技開催業務委託の受託事業者の決定について

非公開

（2）競輪事業（場）のあり方について

資料2を参考に、検討を行った。

【委員からの主な意見等】

（東角井委員）

- ・今後、ネット販売が伸びていき、競輪場で車券を買うよりもネットで車券を買う人が大半になると思う。
- ・そのような中で、競輪だけの施設があるのは、もったいないと感じる。競輪場を老若男女が楽しめるような施設にするためには、競輪だけではなく、複合的な機能を持った施設となることが望ましいのではないか。

（竹内委員）

- ・複合施設という意見に賛成である。アートイベント等のイベントを実施し、お客様に足を運んでもらう仕掛けを実施していく必要があると考える。
- ・子供に競輪を知ってもらうことも重要。美術館の場合、地域の小学校を社会科見学や校外学習として招く取り組みをしているので、競輪でも参考になるのではないか。

(小沼委員)

- ・大宮競輪場は地域の人に役立つ競輪場になるポテンシャルがあると感じた。
- ・入場料を取らないというのは画期的だと思う。競輪場を公園のように利用することができる。
- ・子供の自転車大会のようなものを年間通じて競輪場で実施してもよいのではないか。
- ・個人的に気になっていることは、競輪場のバンクと観客席の間にある金網である。時代も変わってきているので、金網を取り外してもよいのではないか。
- ・業務委託の企画提案で競輪関係者の提案は素晴らしいと感じた。しかし、既存の視点に慣れてしまうこともあると思うので、競輪事業に関わっていない一般の人の意見を反映することも重要だと感じた。
- ・サッカーもギャンブルの側面があるが、あまり感じないのではないか。ブランディングの方法など参考になると思う。

(小川副委員長)

- ・競輪場に人気飲食店に出店してもらうことができればよいのではないか。
- ・カフェなどを設置して、競輪と関係なく地元の方が集まる場所として競輪場を利用してもらえれば、地元の方にもメリットがあると思う。
- ・自転車競技の楽しみ方を知らない人が多いのではないか。多くの人に楽しみ方を知ってもらえる機会をつくることが重要だと思う。
- ・人気選手とのファンミーティングを実施するなど、ファンを増やしていく取組を行うのはどうか。

(小原委員)

- ・オリンピックで自転車競技をよく見たが、とても面白かった。サッカーの事例を先程伺ったが、参考にしてスポーツとしての魅力を伝えられないか。
- ・全国の自転車競技部を盛り上げることで、スポーツとして広めるという方法もあるのではないか。

(岩崎委員長)

- ・他の公営競技は人間ではないものが動力源となっている。競輪は肉体で勝負する競技なので、ヒューマンパワーの限界に挑戦する競技であることを宣伝文句にしてもよいのではないか。
- ・自転車甲子園のような高校生の大会を行うなど自転車競技でもう少し競輪場を利用してはどうか。知名度を上げるためにも有効な手段ではないか。
- ・私も将来的には複合施設がよい思う。
- ・子供に競輪を知ってもらうことも重要。西武ライオンズは子供に帽子を配る取組を行っ

ていた。参考になるのではないか。

- ・双輪場は柵があることでクローズな空間となっている。入場料無料の話もあったが、双輪場が他の公園施設と同様に多くの人立ち寄れる場所となればよいと思う。
- ・双輪場を災害対策関連施設として活用することも可能ではないか。

(3) 県営競輪の経営について

十分な審議時間が確保できないため、次回審議することとした。

3 その他

第4回開催は令和4年1月28日を予定している。改めて開催案内を送付する。

以上